



# TASC-GIFU REPORT

## ごあいさつ

私たち岐阜県教育文化財団は、平成27年9月にぎふ清流文化プラザを再開するにあたり、「障がい者の芸術文化の拠点」とのコンセプトを付加して県民文化及び地域文化の振興を推進するとともに、国の障害者芸術文化活動普及支援事業を担うため、平成30年7月に「岐阜県障がい者芸術文化支援センター（通称：TASCぎふ）」を設立して、障がいのある人を支える人とともに、アートの力を活用して、社会とまじわる場をつくり、障がいのある人の表現と社会参加の可能性を広げることを目指して取り組んでまいりました。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症により一部事業の中止や会期短縮などの影響がございましたが、感染症対策を徹底して展覧会を開催するとともに、動画配信、メール等による作品募集、WEB会議アプリを活用したオープンアトリエなどを開催してまいりました。また、全国障害者芸術・文化祭わかやま大会との連携事業「いろんなみんなの展覧会」では、和歌

山県で活躍する作家の作品紹介や、愛知県・三重県との三県合同展を開催しました。さらに、県内各地でのアウトリーチ事業を展開するとともに、中部学院大学・中部学院大学短期大学部と新たな協定締結による研究やコラボ展の開催、地元企業等による作品二次利用の支援を通じて、県内各地で障がいのある人の芸術活動に関心を持っていただくことができました。これらの事業に多大なるご協力をいただきましたアートサポーター、民間企業及び関係機関の皆さまには、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

岐阜県教育文化財団・TASCぎふでは、令和6年度に岐阜県で開催される第24回全国障害者芸術・文化祭に向けて、障がいのある人の芸術文化活動の支援を通じて、性別、年齢や障がいの有無を超えた多様性のある文化活動にひとりでも多くご参加いただけますよう、これからも励んでまいりますので、今後ともご協力の程をお願い申し上げます。

公益財団法人 岐阜県教育文化財団 理事長 高木 敏彦

## CONTENTS

2	ごあいさつ	20-21	「私のいってん！」
3	TASCぎふについて	22	アウトリーチ
4	オープンアトリエ	23	「渾沌の中の調和」関市
5	いろんな相談	24	「人と間 そのうちNY」関市
6-7	研修	25	「アール・ブリュット MINO+」多治見市
8-9	「tomoni アートサポーター企画 わくわく惑星」	26	「多様な有りよう展 2022」大垣市 「大垣市障害者作品展」大垣市
10	鑑賞支援	27	「HIDA まちなかアート展」飛騨市
10-13	発表の場 ギャラリー展示	28-29	いろんなつながり
14-15	「いろんなみんなの展覧会」	30	協力委員会・アドバイザー
16-19	「そうぞうのパッケージ2」	31	あとがき

## TASC ぎふの思い

「アートで、まじわる。」をキーワードに、社会とのまじわる場をつくり、育て、障がいのある人の表現と社会参加の可能性を広げることを目指して活動しています。

何らかの役割や一つの特性に限定されるのではなく、ゆらぎのある関係性や開かれた社会について、皆さんと一緒に考えていければ幸いです。

## 令和3年度のテーマ

令和6年度に岐阜県で開催予定の「全国障害者芸術・文化祭」に向け、地域と連携を図るため、本年度重点的に取り組む内容を3つに決めました。展覧会などを通して、地域の人々が障がい者の多様な表現に触れる機会を増やし、障がい者の芸術文化や障がい者理解につなげていきたいと思っています。

- 連携** 地域の支援者や自治体等と連携を取りながら、展覧会などのアウトリーチ事業を展開する。
- 広める** 若者やアート、福祉に興味のない方を主なターゲットとして、“広める”取り組みをする。
- 検証** 各事業の目的を明確化し、成果や課題を検証し、次の事業へとつなげるため、検証シートを作成、活用する。



# オープンアトリエ 連携 広める



## ぎふ清流文化プラザ セミナー室

2021年4月14日(水)～2022年3月17日(木) 全27回

会場参加 65名 オンライン参加 85名



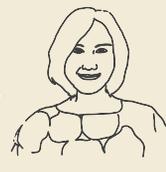
### オープンアトリエ講師



豊富 春菜  
美術作家



鷺見 綱一  
画家



南谷 富貴  
美術作家



桂川 成美  
版画家

障がいのある人やアート活動を支援したい人など、誰もが自由に創作できる場として、ぎふ清流文化プラザを会場にして開催しています。コロナ禍でのオープンアトリエ開催も2年目に入りました。引き続き、人数制限、検温、手指消毒、飛沫防止などの感染対策を徹底して、開催しました。また、コロナ禍に合わせた事業として昨年度から始めたオンラインオープンアトリエは、自宅や施設などの遠方から

でも気軽に参加できるため好評を得ています。会場参加者とオンライン参加者が各々描いた作品に感想や質問などして交流が生まれ、参加者の自信につながり、意欲が増したとの感想も聞かれました。コロナ前の本来のオープンアトリエ開催方法に戻るまでまだ時間がかかりそうですが、参加者が楽しく創作できる場を模索していきます。

### 出張オープンアトリエ

可児市文化創造センター ala 2021年7月25日(日) 13:30～15:00

講師：大森 由貴奈(陶芸家) 参加17名



### 出張ワークショップ

笑顔学園 2021年8月3日(火) 13:30～15:00

講師：水谷 聡美(さとみ絵画造形教室主宰) 参加20名



## いろいろな相談

障がい者の芸術文化活動に関する相談窓口（直接来所、電話、メール、FAX）を設置し、ご本人や、ご家族、支援者からの各種相談に対応しています。  
また、専門アドバイザー（※P30参照）との協力体制を整えるとともに、全国にある支援センターとも連携し、様々な課題の解決に取り組んでいます。

令和3年度  
相談件数

74件

1

### 相談者 舞台関係者

#### 相談内容

主催の舞台演出として、背景に字幕と共にアート作品を利用したい。また、パンフレットや終演後の公開動画内でアーティスト名を記載したい。



#### 対応・回答

作家とつなぐ役割をTASCぎふが行い、作品のアーカイブデータを基に、希望作品13点、作家9名の許諾確認の後、個々の連絡先と作品データを提供した。

3

### 相談者 障がい当事者

#### 相談内容

Web（インスタグラム、YouTube等）を活用して、作品を公開したり広めたいが、どのようにすればいいか。ハッシュタグのつけ方など、色々な注意点なども教えてほしい。



#### 対応・回答

同様の相談が複数寄せられたこともあり、SNS等を学習する場の必要性を感じたため、外部講師にインスタグラム研修として依頼し、初級編を開催した。

※P6参照

2

### 相談者 福祉関係者

#### 相談内容

キャラクターを描く利用者の作品を展示したい。施設内のみの発表会である。著作権はどのような場合に配慮する必要があるか。



#### 対応・回答

一部でもキャラクターに類似していれば著作権侵害になる可能性があるが、個人や家庭などの私的な範囲や教育的な場では使用してよい場合がある。今回の展示は、施設内に限定した公開であり、キャラクターの絵を見せるというより、利用者の成果の発表と捉えれば、著作権侵害には当たらないだろうと思われる。

しかし、基本的には、許諾がないものの複製は著作権侵害になり、特に外部での展示の際に指摘される可能性もある。しかし、好きで描いていること自体を制限することではないことも付け加えてお伝えした。

※P7参照

皆さんのいろいろな声(相談)を基に研修内容を考え実施しています。

# 研修

連携

広める

検証

## 01

### エイブル・アート勉強会

#### 「みんなが自由に表現できるアトリエづくり」

日時：2021年7月22日(木・祝)

参加：オンライン10名

講師：岡部 太郎（一般財団法人たんぼぼの家）

ファシリテーター：澤村 潤、高野 美保

（公益財団法人可児市文化芸術振興財団）

主催：可児市

実施：公益財団法人可児市文化芸術振興財団

協力：TASCぎふ



「SNSを使って発信したい」という声に応え、今回はインスタグラムについての研修会を初めて行いました。SNSについての基本的な講座後、自身のアカウントで、作品や写真を発信している会場参加者全員で、困りごとや課題、新たな方法などを共有しました。

SNSは、社会とつながるツールとして活用することが大事で、例えば、作品発表、ファンづくりなど自分が発信したい目的により、使用するアカウントの種類を使い分けることを教えていただきました。また、作品をスマートフォンできれいに撮影する方法を教わり、実際に自分の作品を撮りました。特に絵画作品を正面から撮るために、水平機能を使えば形が變形しないことが、とても参考になりました。ハッシュタグの付け方についても、どのくらいの人をターゲットにし、絞るかが大事だということが分かりました。

参加者から、全作品の記録としてインスタグラムを活用している例を紹介していただき、他への発信以外に自分のデータ保存の使い方もあることを知ることができました。

簡単に発信できる現代だからこそ、より効果的に使う方法を知り、自己表現の道具として活用していくことも大事だと感じました。

可児市文化創造センター ala との連携事業の一つとして、たんぼぼの家などが企画している「エイブル・アート展」と同時期に、勉強会を行いました。

TASCぎふが2021年12月に行ったアンケート調査により、中濃圏域の福祉事業者などから、創作の課題として、①指導者の確保、②創作の場の環境整備、③支援方法が挙げられました。この課題を踏まえ、創造性豊かに表現活動ができる空間のつくり方について、全国のオープンアトリエの調査を行っているたんぼぼの家から、事例を紹介していただきました。全国の取組みとして、絵画や造形以外にも、詩やダンスなども幅広く表現と捉えて活動しているアトリエの事例や楽しい環境をつくる工夫、支援者の視点などを紹介いただき、指標の一つとなりました。

TASCぎふもこれまで行ってきたオープンアトリエについて、安心して創作できる環境づくりや支援者の見守る姿勢といった大事にしていることとともに、新たな参加者が少ないことや各地にオープンアトリエが広がらないといった課題を報告しました。

学校や仕事場、家庭以外の第三の居場所として、障がいの有無を超えて、まじわる場が各地で広がるために、オープンアトリエが大きな役割を担うのではないかと感じました。



## 02

### 情報発信講座

#### 「インスタグラムを楽しもう！」

日時：2021年12月18日(土) 10:00～12:00

会場：ぎふ清流文化プラザ1F セミナー室  
+ オンライン (Zoom)

参加：会場7名、オンライン2名

講師：杉田 映里子（さかだちブックス）



# 人材育成

TASC ぎふには、ともに事業を行ったり、研修しながら障がい者の芸術文化活動を支える「tomoni アートサポーター（2022年3月15日現在45名）」がいます。福祉に関わる方、アートに関わる方など、障がいの有無や立場などの垣根なく、誰もが登録できる制度を設けています。

また、研修にはサポーター以外にも、障がい者の芸術文化活動に興味をもつ方や県内福祉施設等に参加していただき、地域や自身の活動にフィードバックし、支える人材を増やしくことを目指しています。

## 03

### 権利研修

「表現をまもってひろめる著作権について」

日時：2022年1月26日(水) 17:00～19:00

参加：オンライン17名、後日配信2名

講師：岡部 太郎、北村 英之（一般財団法人たんぼぼの家）



たんぼぼの家(奈良県)のお二人に講師をお願いし、酷似したキャラクター使用の事例や判例を挙げながら、基本的な著作権に関する考え方を学びました。

事前の質問では、誰でも簡単に発信できる状況にある現在、映像配信する際に、注意すべきプライバシーの問題や音楽の著作権などについて教えていただきました。また、作品の取り扱いに関しては、福祉施設と利用者間でルールを明文化しておくことが大事で、その書式に関しても、想定される項目を分かりやすい文言にかえて自分たちでつくるのがよとのアドバイスをいただきました。著作権などの権利については、形式的な手続きよりも、一言事前に断りを入れるなど丁寧な対応をすることで、権利者から理解が得られる場合があることも教えていただき、参考になりました。そして、権利を尊重しながら「まもり」、「広める」という自己実現につながる考え方を学びました。

## 04

### 基礎研修・トークイベント

「表現の生まれる時—障がい者との造形活動をととして—」

日時：2022年3月5日(土) 13:30～15:00

参加：オンライン10名、会場1名、後日配信23名

講師：西村 陽平(美術家)

出演：伊地知 裕子、廣川 暁生(クリエイティブ・アート実行委員会)



県内の福祉施設等では、造形活動に興味をもっているが、指導方法や指導者の確保、環境の不足などを理由に実施していないという実態があります。

今回、自身も美術家として活動する一方、千葉盲学校で長年粘土造形などの図工を担当された後、絵画などのワークショップも行っている西村先生の活動を通して、障がい者とその支援者の関係性や環境について、お話をお聞きしました。障がい者と支援者(指導者)が対等で生きた関係性を築き、「共に創る」という考え方は、ただ放っておくのではなく、認めた上で時には支援者がアドバイスや変化のきっかけをつくることもあります。また環境については、安心できる楽しい時間を保障することが大事だということを教えていただきました。

tomoni アートサポータープレゼンツ企画展

# わくわく惑星

—みんなでつくる空想の星—

連携

広める

検証

会 期：2021年6月12日(土)～7月25日(日)

会 場：ぎふ清流文化プラザ

1F 文化芸術県民ギャラリー、1F エントランス、3F エレベーターホール

tomoni アートサポーターは、TASC ぎふの事業や研修に参加しながら、障がい者の芸術文化活動を支えるボランティアで、45名が登録しています。

「tomoni アートサポータープレゼンツ企画展」は、

ぎふ清流文化プラザのギャラリースペースを活用した展示会の企画立案から展示まで

TASC ぎふのアートサポーターが主体となって行う実践研修の場として開催し、

今回で2回目となります。

「本人の自信につながった。」



「わくわく惑星」展示会動画

「最初は不安だったがイメージを膨らませて表現できた。」



## 第1回 サポーターミーティング

2021年2月2日(火) 18:00～19:00

### 「方向性を決める」

2回目となる本年度の企画の方向性を話し合った。前回の企画は、テーマを設けた持ち寄り型の展示会を開催。コロナ禍での発表の機会として、手応えを感じたことから、その良かった点を活かしながら、課題となったことを改善し、さらにブラッシュアップしていくことを決定した。

#### 【良かった点】

- ・展示会という目標があることで、取り組みがしやすかった
- ・自分のできることで参加できたこと
- ・個人作品、共同制作など、色々な方法や表現があったのがよかった

#### 【課題】

- ①多くの方に、制作者本人や制作の様子なども知ってほしい
- ②障がいの有無に関わらず、つながりたい
- ③コロナ感染症や障がい等により来場できない方に対する鑑賞方法の多様化

## 第2回 サポーターミーティング

2021年3月3日(水) 18:00～19:30

### 「タイトルを決める」

前回のタイトル「まぜこぜアートサファリ」を受けて、「わくわく惑星—みんなでつくる空想の星—」とした。



作品出展者数  
300人以上

「音楽や映像など、多様な作品の出展の可能性がある。」

「自分も参加できるかも、と思ってもらえた。」

「視覚障がい者の知人と初めて制作を行う経験ができた。」



### 第3回 サポーターミーティング

2021年4月25日(日) 13:30～14:30

#### 「課題解決策を考える」

課題②で挙げた「つながる」方法について、色々なアイデアを考えた。

- ・ 素材や部品を提供し、他の方に使ってもらう
- ・ テンプレートをホームページに載せ、ぬり絵でも参加できるようにする
- ・ オンラインでつなぎ、制作の様子を紹介し合う
- ・ リレー形式で制作する
- ・ 表現手段が違う数名に、共同制作を依頼する

#### 【展示作業】

本来、展示計画や展示作業についても、サポーターが行う予定をしていたが、コロナ禍により、展示はTASCぎふのみで行うこととなった。

絵画や立体造形に留まらず、映像や音楽作品の応募もあり、予想を超える作品数が集まった。



### 第4回 サポーターミーティング

2021年8月10日(火) 13:30～14:50

#### 「振り返り」

3つの課題を中心に振り返りを行った。特に課題②のつながる方法としては、材料提供での参加、テンプレートを使用したぬり絵の参加、リレー形式の創作、オンラインでの制作共有、3人の表現者によるコラボレーションなど、様々な方法を試すことができた。

参加 tomoni アートサポーター

加藤 泰子、小沼 雅典、國光 トモマサ、坂本 賢次、土井 さおり、TERAMAKI、水谷 聡美、安田 香実、柳原 史佳、山口 真奈美 他



連携

広める

検証

### 基礎研修

日時：2021年6月23日(水) 10:00～16:30

講師：岐阜県発達障害者支援センターのぞみ 発達指導員  
国際障害者交流センター(ビッグ・アイ) 鈴木 京子、上岡 亜希  
参加：会場 37名(福祉関係者、劇場関係者)、オンライン 26名

### 実践研修・コンサート体験

日時：2021年8月15日(日)

講師：国際障害者交流センター(ビッグ・アイ) 鈴木 京子、上岡 亜希  
参加：19名



障がい者が「劇場」へ出向き、鑑賞者として参加できるようにし、芸術文化に触れる機会を増やすことを目的として、国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)が実施している劇場体験プログラムと連携して、2年目を迎えました。

基礎研修では、障がいに応じたサポート付き公演を実施したいと考えている方々に向けて、障がいの特性やサポート方法など、誰もが楽しめる公演の作り方を学ぶ講座を実施しました。実践研修及び、コンサート体験当日は、研修受講者が劇場スタッフとなり、受付や会場案内の仕方の学びを生かして、手順に沿って受付したり、客席まで誘導したりしました。

一方、コンサート体験においては、音の大きさや響き、演出効果による照明の明暗、鑑賞者としてのルールなどを、鑑賞しながら学び、「劇場」という場所を楽しむことができました。

「劇場って楽しかった!」「初めてのコンサートでした」という感想が多く寄せられたことから分かるように、鑑賞サポートを取り入れた舞台への関心の高さを感じました。

TASCぎふは、障がいがある人もない人も、舞台を鑑賞することが当たり前の世の中であってほしいと願っています。そのためには、文化施設に関わるスタッフや出演者などが多様性についての理解を深め、様々な方が劇場の楽しさを体験できる場をつくっていく必要があるでしょう。

ぎふ清流文化プラザ 2F 長良川ホール

# 鑑賞支援コーディネーター 育成講座 知的・発達障害編



### 知的・発達障がい児(者)にむけての劇場体験プログラム

## 劇場って楽しい!! 2021 in ぎふ

ぎふ清流文化プラザ 2F 長良川ホール

日時：2021年8月15日(日)

出演：Tutti♪(葭田 美香、波多野 有紀、松尾 志穂子)

参加：136名



## ぎふ清流文化プラザでの発表の場

1階「文化芸術県民ギャラリー」や2階「長良川ホール」などでは、定期的に多彩な展覧会や舞台公演などを開催し、障がい者の発表の場として、また多様な方が鑑賞できる場として機能しています。

今年度のギャラリー企画は、新型コロナウイルス感染症の影響で、(一財)岐阜県身体障害者福祉協会との連携事業に関わる展覧会が中止となりましたが、調査で発掘した制作者による展覧会や連携事業として開催する事業など、5つの企画を行いました。

また、エントランスやカフェの小さなスペースでは、初めて発表する方などを中心に毎月一人の作品を

「私のいってん!」として展示しています。昨年度からはじめて紹介カードが、来館者に興味をもっていただくアイテムとなり、作品販売の問い合わせにつながりました。

2階長良川ホールでは、特別支援学校の音楽会などの舞台公演やTASCぎふのメイン事業である「いろんなみんなの展覧会」を開催しました。

障がい者の発表の場とともに、各事業では障がい者の芸術文化活動に関わる人をつなげたり、実験的な企画を試す場ともなっており、それらのアイデアを他の企画に応用する好循環が生まれています。



第7回 tomoni つながる和綿プロジェクト展

連携

広める

～未来へのGIFT for a sustainable future～

会期：2022年1月15日(土)～2月23日(水・祝)

デザイン・制作：都竹 政貴 中谷 ひとみ (学)平野学園 (社福)いぶき福祉会 第二いぶき

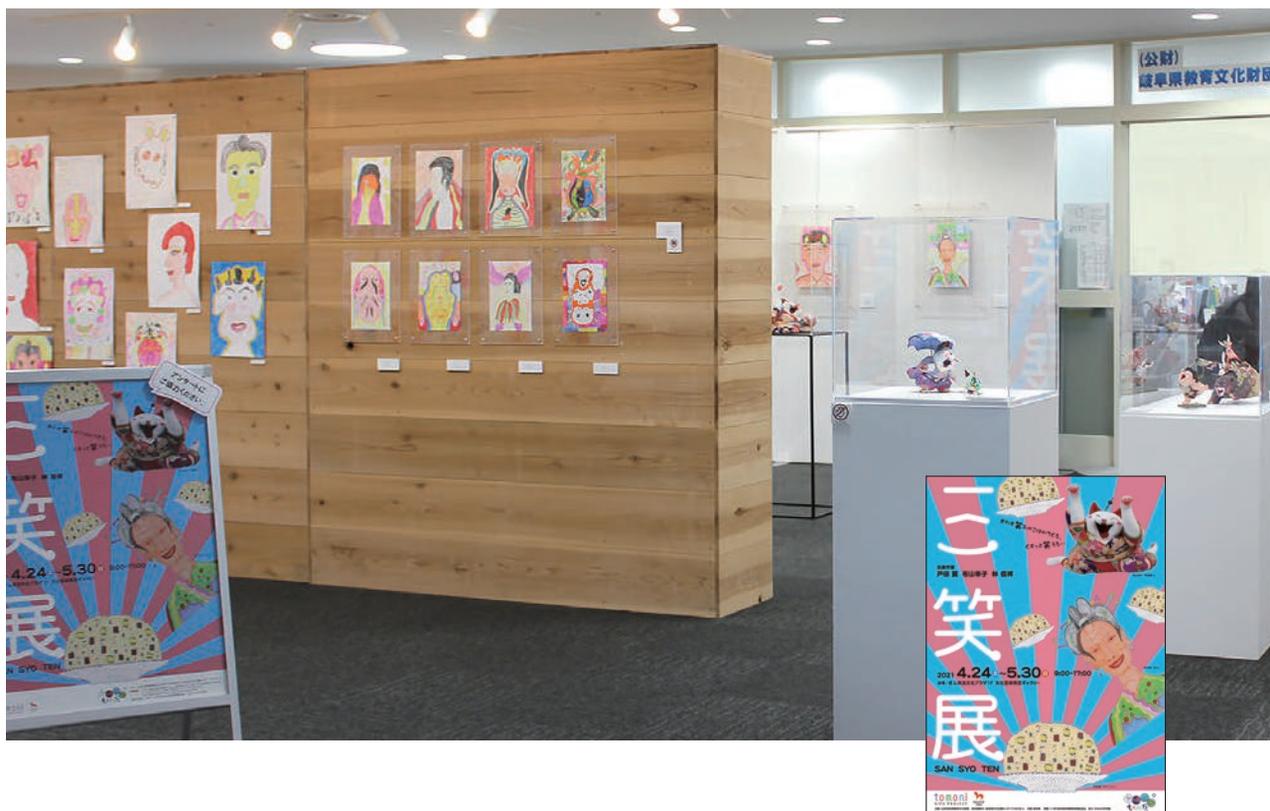


「tomoni project」ホームページ



岐阜で種から和綿を育て、布にし、製品化をするなかで、障がい者の才能や技術を活かすことを目指した「tomoni つながる和綿プロジェクト」展にて福祉施設・作業所に、自然染色、刺繍、原画利用などを依頼し、制作した各種プロダクトを紹介した。





## 三笑展

広める 検証

会期：2021年4月24日(土)～5月30日(日)  
出展者：戸田翼 布山幸子 林信祥

### 目的

コロナ禍だからこそ、来場者が笑って楽しめるテーマとする。

障がいの有無、プロアマなどの特性や立場に関わらず、多彩な表現者として出展者を集め、各々の表現や世界観を知る機会とする。

様々な障がいにより来場できない方のため、WEBを活用して展覧会を楽しく紹介する。

### 成果

展覧会のテーマ「笑い」と明るいものだったことやインパクトのある作品、多様な出展作家の影響から、初めての方など多くの来場があり、各作家の表現方法の違いを見つけたり、「笑い」のニュアンスの違いを楽しんでいた。

作品を通して、出展作家同士がそれぞれの世界観を深く知る機会となった。

### 今後の課題

コロナ禍でも、作家同士の交流の場を設けたい。



「三笑展」展覧会風景動画

「みわちゃんの三笑展ツアー」動画



林信祥さん制作風景動画



連携 広める

## 岐阜県特別支援学校総合文化祭

### 第27回 美術作品展

会期：2021年11月2日(火)～11月14日(日)  
出展校：県内全特別支援学校

### 第26回 音楽発表会

会期：2021年11月12日(金) 12:00～13:00  
出演校：岐阜清流高等特別支援学校 飛騨特別支援学校 羽島特別支援学校



「第27回岐阜県特別支援学校美術作品展動画」



#### 目的

県内の特別支援学校の幼児、児童、生徒の芸術・創造活動の充実や向上、社会参加への意欲を育むとともに、広く社会に対して、障がいに対する理解を深めることを目的として、美術作品展と音楽発表会を開催する。

#### 成果

美術作品展の様子をYouTubeで鑑賞できるように配信した。WEB公開し学校の授業や家庭で、アートを通して身近な仲間や先生、家族と鑑賞し、コミュニケーションの広がりが生まれた。

ぎふ清流文化プラザでの展示会場では、免許更新や長良川ホールでの催しものに来館され、普段、特別支援学校の作品に触れる機会が少ない地域の方々にも多数鑑賞いただいた。

#### 今後の課題

福祉エリアにある各施設と連携し、特別支援学校において制作された美術作品のみならず、多くの学習活動において制作された製品や作品を紹介し、まじわりを創出したい。

全国障害者芸術・文化祭サテライト開催事業 / tomoni アートのフェスティバル2021

# いろんなみんなの展覧会 芽が、でる。

連携

広める

検証

ぎふ清流文化プラザ 2F 長良川ホールなど

会期：2021年11月19日(金)～23日(火・祝)



「いろんなみんなの展覧会 芽が、でる。」展覧会動画



**自由から世界が始まるアート2021 岐阜展**  
東海三県のアーティストによる作品展。



**企画展 はじまりの予感**  
岐阜県にゆかりのある注目作家の作品や制作風景を展示。



**全国障害者芸術・文化祭 わかやま大会コーナー**  
和歌山県の「紀ららアート展」入賞作品の紹介等。



**表現ツール博覧会**  
デジタルアート作品やレーザーカッターを使った作品や多様な表現に活かせるツールを紹介。



**tomoni つながる和綿プロジェクトの紹介**  
種から育てた和綿を糸、布にし、デザイン・制作したプロダクトをはじめ、プロジェクトの活動を紹介します。



**みんなのもくもく作品展**  
特別支援学校の生徒らが制作した木を使った作品や製品を展示。

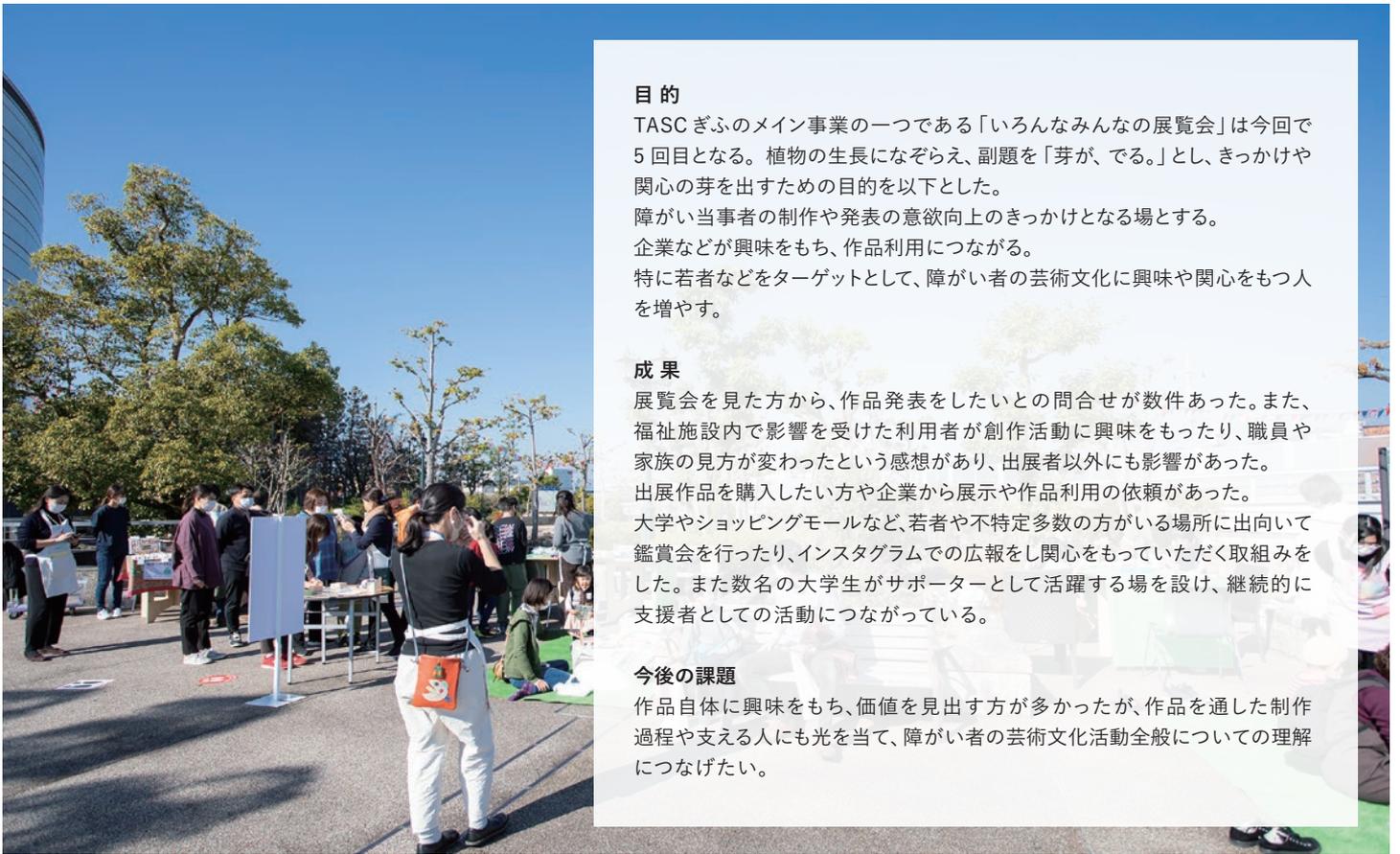


**生でつないじゃお!**  
「NPO法人希望の園(三重県)」とオンラインでつなぎ作家の制作の様子をライブ中継。



**プロモーション**  
大学をはじめ近隣福祉施設 ショッピングモールで幅広い層に向けたプロモーションを展開。





### 目的

TASC ぎふのメイン事業の一つである「いろんなみんなの展覧会」は今回で5回目となる。植物の生長になぞらえ、副題を「芽が、でる。」とし、きっかけや関心の芽を出すための目的を以下とした。  
障がい当事者の制作や発表の意欲向上のきっかけとなる場とする。  
企業などが興味をもち、作品利用につながる。  
特に若者などをターゲットとして、障がい者の芸術文化に興味や関心をもつ人を増やす。

### 成果

展覧会を見た方から、作品発表をしたいとの問合せが数件あった。また、福祉施設内で影響を受けた利用者が創作活動に興味をもちたり、職員や家族の見方が変わったという感想があり、出展者以外にも影響があった。  
出展作品を購入したい方や企業から展示や作品利用の依頼があった。  
大学やショッピングモールなど、若者や不特定多数の方がいる場所に出向いて鑑賞会を行ったり、インスタグラムでの広報をし関心をもっていただく取組みをした。また数名の大学生がサポーターとして活躍する場を設け、継続的に支援者としての活動につながっている。

### 今後の課題

作品自体に興味をもち、価値を見出す方が多かったが、作品を通じた制作過程や支える人にも光を当て、障がい者の芸術文化活動全般についての理解につなげたい。



### TASGOO 地蔵のツボ

突如会場に現れた地蔵に見せたいものを披露。



### 謎解きチャレンジ

会場に散りばめられた謎を解き明かすリアルゲーム。



### フリーピアノ

会場に自由に演奏できるピアノを設置。



### アートサポーターによる 粘土のワークショップ



### アートサポーターによる ペイントのワークショップ



### 画材バンク

これまでに寄付された画材を欲しい方にお渡した。



### アートマルシェ

県内福祉施設や個人作家のアートなグッズなどのお店が日替わりで出店。



### オンライン鑑賞ツアー

会場に来られない方と、Zoomをつないで、展覧会をご案内。



### 「芽が、でる。」公募作品展

「芽が、でる。」をテーマに公募した作品を展示。  
全国各地から568点の応募があった。

連携 広める 検証

ぎふ清流文化プラザ1F 文化芸術県民ギャラリー

会 期：2021年9月11日(土)～10月24日(日)

出 展 者：伊藤 一輝(ワークサポートみやこ)

和泉 絢子(ウイングハウス)

安江 伸哲(福祉の里あすなる)

映像記録：TERAMAKI

監 修：ワークショップユニット コココ



「そうぞうのパッケージ2」展覧会動画

## コミュニケーションから生まれる作品づくり

人との対面が困難なコロナ禍で行った昨年度のコロナ博は、郵送で箱を送り合い、その中に作品を共同制作する手法をとりました。その対面しない共同制作の試みは新たなコミュニケーションの可能性を生みました。

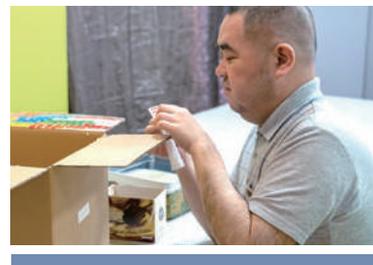
今回は、3つの福祉施設から制作者が1名ずつ参加し、3名で対面しない共同制作を行いました。各々が得意とする「段ボール」「ペン」「シール」という素材と制作手法を使って、箱の中に造形をしていきました。そして、その箱を1週間ごとに送り合い、交互に箱の中に造形物を作り変化させていきました。



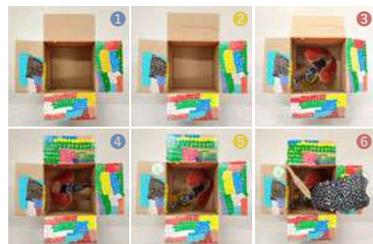
伊藤 一輝



和泉 絢子



安江 伸哲





会場では、知らない人(来場者)同士で共同制作が出来るように小さな箱と材料を用意して「制作体験」をしていただきました。



2021年12月15日(水) オンラインとぎふ清流文化プラザにて 進行: TASC ぎふ

参加者(敬称略): 川上 宏二(ワークサポートみやこ・伊藤さん支援者)

絹谷 梢・安田 香実(あすなろ・安江さん支援者)

酒井 美香子(ウイングハウス・和泉さん支援者)

寺島 真希(TERAMAKI・撮影)

野呂 祐人・工藤 恵美(ワークショップユニット コココ・監修)



## 企画主旨について

**TASC:** 昨年の「そうぞうのパッケージ」から今年の「そうぞうのパッケージ2」への流れも含め、監修者であるコココさんに企画主旨について、ご説明いただきます。

**野呂:** 昨年は福祉施設のお二人とコココの二人が1対1でペアを組み、郵送で箱の中に造形をしまいました。私たちはもともと、会話をせず共同制作するなど、コトバ以外でのコミュニケーションを模索しながら子どもたちとワークショップを行ってきました。また昨年、コラボ展への参加の際にコロナウイルス感染症があったことや「障がいのある方と対等な関係性を築いてほしい」とのリクエストがあり、人の属性や関係性に捉われない方法として、時間と空間を共有しない、対面せずに箱を送り合いながら制作するという流れになりました。

ただ、昨年の振り返りの際に、「この取組みが何の役に立つのか?」というアンケートを元に参加者で話し合ったことも踏まえ、「造形活動を通して人と人が関わる喜びや楽しさを感じてもらおうこと」を目的としました。また、1対1ではなく3名で行うことや素材を複雑にしないで、各自の得意な手法(段ボール、ペン、シール)で制作していただくという点を変えました。

## 取組の振り返り

### (対面せずに制作することについて)

**TASC:** 段ボールの昆虫を作った伊藤さん、シールの安江さん、文字の和泉さんの様子を教えてください。

**川上:** 伊藤さんは段ボールで作った虫を箱の中にどう付けるかを考えて、三角形の台を作り、それに貼って固定したけれど「付けなくていい」と聞いてから、サイズが箱に収まらないくらい大きくなっていきました。

**絹谷:** 安江さんは自分からスタートする箱は取り掛かりやすかったのですが、他の人からスタートした箱に加えていくのは、取り掛かるのに促しが必要でした。「他人の物に貼っていいの?」という感じで難しそうでした。きっかけがあれば

昆虫にシールを貼ることができたという感じです。

**酒井:** 和泉さんは普段平面に書いていたので、立体だとなかなか手をつけることができませんでした。気持ちが落ち着かないと職員が書くことを勧めても手を着けることができず、少しずつ取り組んでもらいました。最後の方は、別の紙に書いたものを貼りつけるなどの工夫もしました。そもそも一度にたくさん書かないので、時間が掛かります。また、これまでは勧められて書くというより気が向いた時に書くという形だったので、人をお願いされて書く経験は施設ではあまりありませんでした。ただ届いた箱に興味はあるようで、箱の中を眺めたり、触ったりする姿がありました。

**TASC:** 寺島さんには、全ての施設に出向いて映像を撮っていただきましたが、気付いたことはありますか?

**寺島:** 最初、お互い相手のことを意識していない感じがしていて、それぞれ自分が作りたいものを作っている感じがしました。しかし後で映像を確認している時に、皆さんの目線などから他の人の制作した部分を意識していると感じました。和泉さんは文字を書く方だと思っていたら顔を描かれたので、意識の変化があったのかなと思いました。

**工藤:** もう少し長く制作を続けたら変化していたかもしれませんね。

## その後の変化について

**野呂:** 絵画を描くときに描かない余白部分も大事にするように、関わる所と関わらない所をそれぞれ分けていた感じもしました。

**安田:** 伊藤さんのように言葉でコミュニケーションが取れる方もいれば、そうでない方もいて、今回初めて誰かと一緒に制作するチャレンジだったのではないかと思います。

**工藤:** 人との関わり方の特徴がそれぞれ出ていたかも…。細やかな所に小さなコミュニケーションが生まれていたように思います。

**川上:** 制作時間について6週間では短かったよ

うに思いました。伊藤さんにとって、自分の昆虫に他の人が手を加えることは嫌ではなかったようですが、人自体への興味ではなく、シールを貼られた時、その瞬間に刺激がありました。夏にこの企画を行ったことが、今になって影響が出てきていて、それまでは昆虫の図鑑を見てそのままの色を塗っていたけれど、今はシールの色合いに影響され、カラフルな昆虫を作るようになりました。この間も実習生に、段ボール昆虫を教えた時、「想像の色をつけた方がいいよ」とアドバイスをしてびっくりしました。人って、こんな風に変わるんだなと思いました。

**TASC**：最後に Zoom 対面をしましたが、最初に対面し、参加者の顔が分かった方が良かったでしょうか？

**酒井**：どちらが良いかは分かりません。和泉さんも文字だけだったのが、最近は絵を描いたり、ポスカを自分で用意して色をつけたり、シールを貼ったりして作品を作るようになりました。

**絹谷**：対面が良かったかどうかは分かりませんが、今回のような相手が誰か分からない状態での取組みでもそれはそれで良かったです。制作風景を見ていて、相手を尊重する気持ちがあることが分かりましたし、職員や家族の考え方や見方も変わってきて、安江さんが台紙によってシールを変えていることを発見し、表現にバリエーションが出てきていると感じます。

**安田**：安江さんは Zoom 対面の際に、客観的に自分の取組みを見るという経験をしました。自分の物として受け止めていたように感じ、自分が主役だと感じていたようでした。

**TASC**：Zoom 対面の際、安江さんが笑顔でいらしたことが印象的でした。

**川上**：事業所では伊藤さんが変わると周りの利用者さんが影響されて、今回の取組みが“感染”していく感じです。Zoom 対面の時、安江さんに「シールはどこにいくらで売っているか」と聞いていましたが、伊藤さんもいろんなシールが欲しいと思ったらしく、お金を貯めて自分で買いに行かれると思います。

## それぞれの表現手段をお持ちの方の参加について

**酒井**：和泉さんには、文字を書くことを期待されていたかもしれませんが、絵も描かれました。私自身は、和泉さんの個性を活かせるようにと、思って支援していました。

**安田**：鑑賞者も、素材によってどう変化したか分かりやすかったので、素材を絞るのは良かったと思います。

**野呂**：時間や空間を共有する方法(一般的な共同制作)では、時に参加者のモチベーションがズレる場合があります。箱を郵送することで、時間と空間を分けることにしたのは、そういうことも関連しています。前は、「まざりあう」という印象でしたが、今回は「まみえる」という印象です。その後の影響や波及も嬉しいです。

**絹谷**：安江さんは普段割と同じ空間にいる方の影響を受けやすい方で、創作活動などでは同じグループの方の作品に似ることもあったのですが、今回はブースを作って制作に専念できるように配慮したので本来の表現を引き出しやすかったと思います。また、この活動を通して自分が認められたと感じられたようで、その後グループ活動での創作の際も周りの影響を受けないオリジナルの作品を出してくれるようになりました。

## 今後の展開のアイディアや課題など

**寺島**：3つの箱は負担が大きかったように感じました。長期間行くとか、箱も大きな1つで、じっくり関わる方がよかったかもしれません。

**安田**：今回の方法だと制作期間が実質で2日くらいしか取れず、私から見ると、何となく仕上げるまで行かず途中で終わる感じに見えたので、一つをじっくり取り組むのもいいですね。

**TASC**：最後に監修のお二人からコメントをお願いします。

**工藤**：企画が始まった当初は、他の方の影響が見えにくい部分もありましたが、今日お話を伺い、関わり合いの中で、企画を通して人と関わったことが、その人のどこかに残って、それぞれの活動に影響を与えていたことが分かり、やってよかったと思いました。

**野呂**：造形物を通じた影響について、「触発」という言葉を自分はよく使います。具体的に言語化せずとも、人が作ったものから何となく行動や感情に影響を受けてしまう。6週間の間に、箱を通してお互いが「触発」されていたと思います。そして、他者に「触発」されることが、人間が社会に生きていくうえでの楽しい部分だと思っています。

**TASC**：支援する方は大変だったと思いますが、今回の取組み後の皆さんの変化を聞いて、とても嬉しく思っています。ありがとうございました。

# 私のいってん!

連携

広める

岐阜県にゆかりのある多彩な表現者たちの作品を毎月お一人、ぎふ清流文化プラザ1F エントランスで紹介しています。



作品の利用などにつなげることを目的に、来館者が自由に持ち帰ったり、作家自身の宣伝に利用する、はがきサイズの紹介カードを作成しました。

## 私のいってん! 2021年4月



「帽子をかぶる女」



林 信祥  
HAYASHI Nobuyoshi

TASCぎふと関わりはじめた当初の作品は、鉛筆で輪郭線をラフに描いたものでした。その後オープンアトリエに参加されるようになり、ペンを使った色彩が加わってきました。しかし、何と云っても面白いのは、歴史上の人物から空想の生物まで作品のテーマを独特のセンスで選ぶことやそれらのカタチの自由さだと思います。どこを切り取っても、林さんの匂いのようなものを感じます。

## 私のいってん! 2021年5月



「だいすきな車」



高橋 秀樹  
TAKAHASHI Hideki

黒色で輪郭を描き、画面全てにオイルパステルを塗り込めることが、高橋さんの作品の特徴です。また簡潔で太い輪郭も共通しています。この作品は段ボール板を切り抜いて、別の画用紙に貼り付けています。どの作品も、好きなものを思いながら、丁寧に、丁寧に描いているのが伝わってきます。

## 私のいってん! 2021年6月



「フュージョン・ガールズ」



熊崎 駿  
KUMAZAKI Shun

オリジナルのキャラクターの性格や服装など詳細に決めたものをまとめたノートを作成し、それらのキャラクターが登場する物語などをつくり、次へと展開していきます。可愛いキャラクターから、ロボットのようなキャラクターまで、その数は100を超えています。そして、その全てを把握しているようです。本作品は、本展のために新たに制作した作品です。次は、どんなキャラクターが生まれるのか楽しみです。

## 私のいってん! 2021年7月



「水のゆうぐめいろ」



よこい ゆうひ  
YOKOI Yuhi

「絵の中に入って遊ぶよ!」みんなの目を惹きつけるカラフルな絵を完成させた後は、自分で描いた滑り台や障害物コースを、はさみで切り抜いて、広い紙の中に遊び場を次々と作り変えるのも得意技。どの作品も鮮やかな色使いで、観る人を明るく楽しい気持ちにさせてくれます。

## 私のいってん! 2021年8月



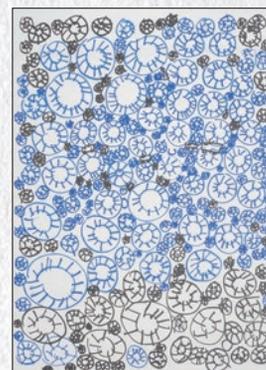
「十二支」



木田 和裕  
KIDA Kazuhiro

数年前に、所属している施設職員の方が、気軽な気持ちで絵を描くことを依頼したところから始まり、現在では、展示機会や作品を利用したグッズ製作のために絵を描いているそうです。はっきりとした輪郭線で描く、どこか人間を思わせる動物のイラストは、誰もが「かわいい!」と言ってしまいそう。どんなところに、人間味を感じるでしょうか?よく観察してみてください。

## 私のいってん! 2021年9月



「エビ」



飯島 弦重  
IIJIMA Tsukasa

簡単な図形から発想や物語を膨らませ、画面全体に描いていくことが多いようです。完成したら、紙に描いた作品を真っ黒に塗りつぶしたり、細かくハサミで切り刻んだり、ホワイトボードに描いた作品をすぐ消し、作品を保存することには興味がないようです。もしかしたら、作品自体を消滅することまでが作品制作なのかもしれません。今回作品を初出展することとなったが、展示された作品を制作者本人はどう感じるだろうか?



3か月ごとに岐阜県庁内の執務室と  
ぎふ清流文化プラザ1階にある  
tomoni カフェでも作品を展示。

私のいってん!  
**2021年10月**



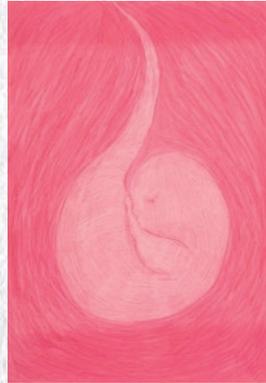
「ビッグ・マシーン」



**田藤 哲也**  
TAFUJI Tetsuya

「作品を描いているときは、無心」と本人の談。専門学校でデザインの勉強をした経験があるというが、そういった要素から全く解放されて、自分の内側から湧き上がってくる、本人も気付かないものが表れているかもしれない。近年、支援者とともに個展やコンクールなどに積極的に取り組み、活躍の場を広げている。作品を人に見せるということに気恥ずかしさを感じるというが、人間の本質をさらけ出しているからだろうか。

私のいってん!  
**2021年11月**



「姫様」

**さつき SATSUKI**

3年の間に、絵も自身も変化しているようだ。前期に分類される可愛い作品や模写から、中期になると感情を吐き出すように、赤や黒など、限られた色使いと激しい筆致で、内面のドロドロとしたものや女性性について思い悩んだことから起因して描いているそう。そして、後期になると「赤ちゃん」など、憧れや願いといったテーマへと変化している。それは、人との関わり方の変化によるところが大きいと支援者は言う。鑑賞者もまた、自分の中に同質な部分を発見したり、違和感を感じたり、多様な感じ方ができそうだ。

私のいってん!  
**2021年12月**



「無題」

自分で製作したさをり織りを母親にプレゼントする際に、母の顔を描いたことがきっかけとなり、絵を描くことを始めたようだ。はじめは、画面いっぱいには四角形などを敷きつめるように描いていたが、最近は花を描くことが好きで、



**二宮 真一**  
NINOMIYA Shinichi

施設職員が用意した花の資料や本を見ながら描くことが多いようだ。握力が弱いため、ペンと水彩色鉛筆を使い、鉛筆の先を直接水につけ、伸ばすように描いていく。その優しいタッチにより、テーマとなる自然物が、変化していくように感じられるが、皆さんはどう思うだろうか？

私のいってん!  
**2022年1月**



「無題」

毎日通う施設で彼は好きな時間に自由に絵を描いている。その絵はメニューの挿絵やアートグッズに採用され、今は仕事として絵を依頼されることもある。数多くある彼の作品を公に展示するのは今回がはじめての機会となる。好きなモチーフの一つに「人物」があり、ほぼ毎日描く人物は、好きな人やお世話になった人を画面に大きく構成して描くことが多く、どの作品もにっこりと笑みがこぼれている。色彩の組み合わせが光る作品群を、今後多くの場所で見られることを楽しみにしたい。



**竹内 裕俊**  
TAKEUCHI Hirotochi

私のいってん!  
**2022年2月**



「ファッションショー」



**高木 瞳**  
TAKAGI Hitomi

好きなキャラクターや女の子など人物を描いた後、それらを切り抜いた“人形(ひとがた)”のような作品が沢山あります。それらの多くは、本人の想像の人物で、リボンやドレスなど“カワイイ”を象徴するアイテムを身にまとっています。また、アニメに登場するキャラクターのごとく、八頭身以上に縦長に引き伸ばされた形はオリジナリティに溢れています。作者が自分の理想像に囲まれ、楽しい会話をしているのを想像するだけで、心躍る作品です。

私のいってん!  
**2022年3月**



「カラーピーマンの歌」



**未麻**  
MIO

幼い時から外で遊ぶこともできなかった日々を送っていた。長い入院生活のなかでいろいろな色や画材と出会い、絵を描きはじめてそう。彼女には描くことは息をするのと同じくらいに必要なことでした。たくさんの動物と触れ合い、対話をする彼女にとって、庭で育つ木や花、野菜たちも同じ生きているもの。お父さんが育てているカラーピーマンも、彼女の目に映るとどこか楽し気に映る。あなたにはどんな歌が聴こえてきますか。

## アウトリーチ

岐阜県は、岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨の五圏域があります。TASCぎふでは、各圏域において、展覧会をはじめ、音楽、パフォーマンス、ダンス、映画上映など様々な事業を各地の作家、福祉施設、支援者らとともに事業を展開することを進めています。

それぞれの想いを具現化するためには、様々な人や団体とつながり、志をともにすることが必要です。地域ごとの環境やネットワークもそれぞれに特色があり、その地域ならではのアイデアも生まれてきます。それぞれの想いと想いがつながって、多様なカタチが育まれています。

また、TASCぎふが所属する東海・北陸ブロックの広域センターや各県の支援センターとともに、ネットワークを構築し、県境を越えて、情報交換や研修、発表の機会等を設けています。

また「全国障害者芸術・文化祭」や「障害者芸術・文化祭サテライト開催事業」といった厚生労働省事業との連携を図り、広域でも連携しています。





こんどん ちょうわ  
**渾沌の中の調和**

連携 広める 検証

古民家あいせき、せきてらす、本町BASE(関市)

会期：2022年2月10日(木)～23日(水・祝)

主催：Nuno SEKI、TASCぎふ

出展者：5名 出演者：1団体

市民団体 Nuno SEKI が中心となり、中部学院大学の学生や教職員、地元福祉団体と TASC ぎふ が連携して、古民家あいせきを会場として、関市在住など県内作家 5 名の作品を発表する展覧会「そのうち NY partII」を開催しました。また会期中には、中部学院大学の教職員が中心となり、空き缶を用いた作品や文字の群衆作品と対峙する「考古学的ダイアログ」を開催。思考の中で時間を戻したり早めたりする視点に立って、作品を鑑賞することで、新しいものの見方が生まれました。

関連イベントとして、せきてらすにおいて、地元の福祉施設「元気あっふ」による身体アート表現ワークショップ「踊舞ーおどろまい!!」や県内外の福祉施設の販売、演奏会が行われました。また、本町BASEでは、「作家とコネクト! グッズづくりワークショップ」を開催。バッグにアイロンプリントを施し、オリジナルバッグを作りました。多くの調和を生み出した企画になりました。



考古学的ダイアログ (古民家あいせき)



踊舞ーおどろまい!! (せきてらす)



作家とコネクト! グッズづくりワークショップ (本町BASE)



「渾沌の中の調和」展覧会動画



第一回 中部学院大学 × TASC ぎふコラボ作品展

あわい ニューヨーク  
人と間展「そのうちNY」

連携

広める

検証

中部学院大学 関キャンパス 1F クリスタルホール(関市)

会期：2021年7月26日(月)～8月10日(火)

主催：中部学院大学、TASC ぎふ

出展者：1名

中部学院大学とTASC ぎふとの連携協定に基づく事業として、学生や地域住民に作品を見ていただく機会とするため、「第一回中部学院大学×TASC ぎふコラボ作品展 人と間展 そのうちNY(ニューヨーク)」を開催しました。この作品展では、地元関市にゆかりのある作家である大野慧正さんの作品の数々を、作品制作に携わった響愛学園のご協力の元、学内にある展示ブースや図書館に展示しました。作品展示は、学生の研究の一環として、TASC ぎふが展示の仕方や作品の見せ方などについてアドバイスしながら進めました。みんなで楽しく展覧会を作り上げた経験を活かして、障がい者の芸術文化活動を支える人材として活躍してくださることを期待しています。



図書館での展示



展示作業



オープニングイベント



ワークショップ「描いて遊ぼう！」

tomoni アートフェスティバル 2021

## アール・ブリュット MINO+

連携

広める

検証

多治見市美濃焼ミュージアム（多治見市）

会 期：2021年11月9日（火）～12月19日（日）

主 催：アール・ブリュット美濃展事務局、多治見市美濃焼ミュージアム、TASC ぎふ

出展者：37名 出演者：1団体

ワークショップ「土で遊ぼう！」 2021年11月27日（土）

ワークショップ「描いて遊ぼう！」 2021年12月11日（土）

参加型展示「どんどん つなげる、ひろがるアート」 2021年11月9日（火）～12月19日（日）

「国際陶磁器フェスティバル美濃展」の協賛事業として開催を予定していた「アール・ブリュット美濃展'21」が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催中止となりました。その展覧会に展示予定であった作品を「アール・ブリュット MINO+」として、多治見市が所管する多治見市美濃焼ミュージアムで展示。展覧会タイトルの末尾にある「+（プラス）」は、ご来場いただいた方が作品から語られる想いを感じ、それぞれの心の中にプラスされるものが生まれることへの願いが込められています。

アール・ブリュット美濃展事務局、多治見市美濃焼

ミュージアムと協力して、展示作品、展示方法、会期中の催しを企画、実施しました。オープニングイベントでは、多治見市の福祉事業所「おといろアイランド」をゲストに迎え、笑いと言楽ありの華やかな幕開けとなりました。会場には、ひだみわさんの作品をベースにした来場者との共同制作「どんどん つなげる、ひろがるアート」も展示。来場者が短冊状の色紙を思い思いにつなげて、会場を彩りました。

“つち粘土”や“木っ端”を素材にしたワークショップも開催し、来場者、出展者、主催者みんなで作った展覧会となりました。



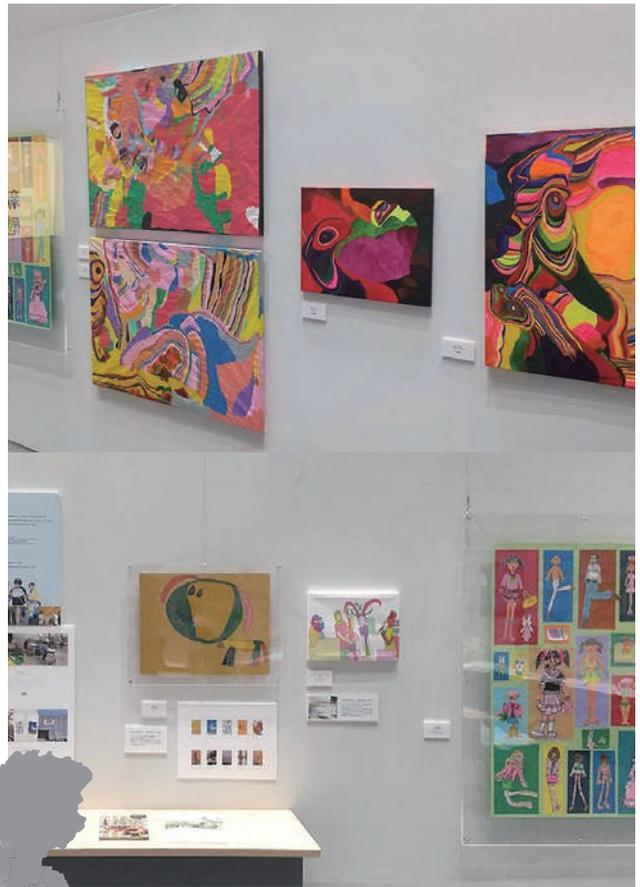
「アール・ブリュット MINO+」展覧会動画



おといろアイランド演奏動画

「どんどん つなげる ひろがるアート」制作動画





全国障害者芸術・文化祭サテライト開催事業  
いろいろなみんなの展覧会巡回展

連 携

## 多様な有りよう展 2022

OKBギャラリーおおがき(大垣市)

会 期：2022年1月7日(金)～1月20日(木)

主 催：岐阜県、OKB 大垣共立銀行、TASC ぎふ

出展者：「いろいろなみんなの展覧会 芽が、でる。」出展作家6名

特別支援学校生徒4名

OKB関連作家1名

大垣共立銀行が運営する「OKB ギャラリーおおがき」での展覧会は今年度で3回目になります。今回は、「いろいろなみんなの展覧会 芽が、でる。」出展作家6名と県内特別支援学校4校の生徒作家作品、OKB関連作家1名の作品、計131点を展示。さらに「全国障害者芸術・文化祭」のサテライト開催事業として開催して、「第21回 全国障害者芸術・文化祭 わかやま大会」パネル展示も行い、令和6年度岐阜県で開催予定の同文化祭のPRも行いました。また、大垣共立銀行とTASCぎふが連携して行っている現金封筒への作品利活用のプロジェクトの紹介に伴い、作家2名の原画も展示しました。

連 携

## 大垣市障がい者作品展

大垣市役所1階 エントランス(大垣市)

会 期：2021年12月2日(木)～12月17日(金)

主 催：大垣市

協 力：TASCぎふ

TASCぎふブース出展者4名

今年初めて、大垣市障がい福祉課との連携事業として、令和元年から大垣市が開催している「大垣市障がい者作品展」の一角に、西濃圏域の作家2名の作品8点やTASCぎふ活動紹介パネル、作品利用の紹介(OKB 現金封筒の取組み紹介・館内装飾などの作品利用)、制作風景動画を展示。大垣市内の福祉施設や個人から出展された作品とともに、市役所利用者に見ていただきました。

また、西濃圏域で展示機会を求める福祉施設の利用者作品を展示することもできました。



連携 広める 検証

全国障害者芸術・文化祭サテライト開催事業  
 いろんなみんなの展覧会巡回展

## HIDA まちなかアート

飛騨市古川町内店舗等10か所（飛騨市）  
 会期：2021年10月1日（金）～11月7日（日）  
 出展者：10名

古川町公民館 エントランス（飛騨市）  
 会期：2021年11月6日（土）～7日（日）  
 出展者：「いろんなみんなの展覧会 芽が、でる。」出展作家3名

主催：岐阜県、NPO法人はびりす、TASC ぎふ



「NPO 法人はびりす」を中心とした飛騨圏域で活動する団体と連携し、飛騨市古川町公民館で開催された「HIDA フォーラム」の一環として行われる展覧会を開催しました。作品展「HIDA まちなかアート」では、飛騨市河合町の伝統工芸「山中和紙」に作品を印刷し、古川町内の9店舗やJR 飛騨古川駅の跨線橋の掲示板に絵画や立体造形を展示し、町中にアートがあふれました。

TASCぎふからは、毎年開催の「いろんなみんなの

展覧会」の巡回展として、飛騨で活躍する作家3名の原画を、飛騨圏域にある特別支援学校や福祉団体が日常の活動や学習で制作した作品とともに、展示しました。

また、同会場において地元市民グループによる「ごろんアート」や「写真展」、「黙々タイム」等の催しも行われ、障がいの有無に関わらず参加できる工夫を凝らし、多くの方々にご参加いただきました。飛騨の町中でアートを通したまじわりが広まるきっかけとなりました。

# いろんなつながり

連 携

広める

企 業

## OKB大垣共立銀行

OKBがプラットフォームになり、障がい者サポートに賛同する企業と連携し、障がい者自立サポートを行う事業。TASCぎふが作家情報提供を担当。



### 現金封筒「tomoni アート展」

(OKB 現金封筒表紙に作品を採用)

#### 第1期 (2020年10月～2021年9月)

作家10名(30件)が採用。さらに、企業独自の広告紙への掲載につながった。

#### 第2期 (2021年10月～2022年9月)

(一財)岐阜県身体障害者福祉協会の障がい者アートバンク登録作品5点を含めた作家10名の作品を選定。

### tomoni アートプロジェクト

愛知県の支援センターとともに、地域企業と協力して、障がいのある作家の作品を活用した製品を商品化して販売するプロジェクトを2月24日に開始。商品化第1弾は、中北薬品株式会社(愛知県津島市)の手指消毒液のラベル。

### 展覧会

「多ような有りよう展 2022」※P26 参照

OKB ギャラリーおおがき (大垣市)

「tomoni ART Project 展」作家5名展示

2022年3月16日(水)～20日(日)

OKBハーモニープラザ名駅出張所(愛知県名古屋市)

## 建築関連業者

TASCぎふが作家情報提供を担当し、各企業が建築現場にプリントした作品を展示。使用料を作家へ還元する事業。



「このまちの展覧会」(養生シートに作品を採用) 株式会社名神、株式会社栗山組、株式会社研木村、株式会社三和木、株式会社CONST、鳳建設株式会社に作家19名(22作品)が採用。(2022年3月15日現在)

## tomoni カフェ

ぎふ清流文化プラザ内にリニューアルオープンしたカフェ(NPO法人舟伏)との連携。



シール(紙袋やカップに貼るシール)  
作家2名採用

販売(ギャラリーと連携した販売)  
2施設

## 発表協力

東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センターを通じて、他県の支援センターが開催する展覧会等に、県内作家の紹介や情報提供を行った。



### 「自由から世界が始まるアート 2021 in 愛知」

2021年8月21日(土)～8月29日(日) 古川美術館(名古屋市) 岐阜県作家2名

### 「自由から世界が始まるアート 2021 in 三重」

2021年8月25日(水)～9月5日(日) 三重県立美術館 一般展示室(津市) 岐阜県作家11名

[連携先] NPO法人愛知アート・コレクティブ、NPO法人希望の園、(社福)中日新聞社会事業団、(公財)古川知足会

他県支援センター

中部学院大学  
短期大学部



障がい者芸術文化活動の振興に関する  
包括連携協定締結式

障がい者芸術文化活動の振興に関する包括連携協定を締結

2021年8月4日(水)

次の4項目について、連携・協力することになった。

- ①障がい者芸術文化の学術研究に関すること。
- ②障がい者芸術文化活動を支援する人材育成に関すること。
- ③障がい者芸術文化の普及、発展に関すること。
- ④芸術文化を通じた障がい者の社会参加と地域福祉の向上に関すること。



作品鑑賞会開催

2021年10月28日(木)

人間福祉学部の学生対象に実施 作家3名紹介

展覧会協力

※P24 参照

障がい者芸術文化活動に関する書籍を大学図書館に配架

全国の各障がい者芸術文化支援センターから刊行物等を提供していただき、学生や一般の方が閲覧できる環境を整備。

岐阜大学



作品鑑賞会開催

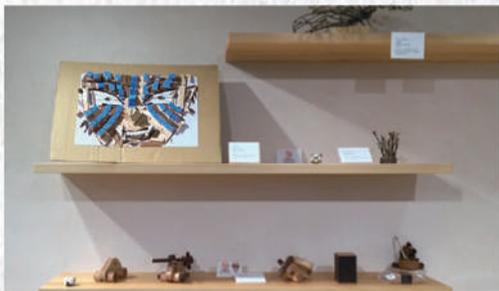
2021年12月21日(火)

教育学部の学生対象に実施 作家3名紹介

卒業論文作成協力

芸術文化活動を行う障がい者施設の紹介など

ぎふ木遊館



みんなのもくもく作品展

2021年11月2日(火)～23日(火・祝)

県内特別支援学校の幼児・児童・生徒が木を  
主材料に制作した作品や作業製品を展示。

※P14参照

可児市文化創造センター ala /  
(公財) 可児市文化芸術振興財団



ala×TASCぎふ連携 いろんなみんなのアート展

2021年4月1日(木)～2022年3月28日(月)まで

約3か月ごとに、近隣の福祉施設に所属する作家  
4名の作品を展示。

「最も自由な人たち vol.8」(リモートライブ)

2021年9月26日(日)

岐阜県1施設出演

[連携先] 広域センター、NPO法人希望の園



「おてら meets フェスティバル3rd」

2021年10月29日(金)～10月31日(日)

法源寺(名古屋市) 岐阜県作家2名出展

[連携先] 広域センター

愛知アール・ブリュットネットワークセンター

「駐日ラテンアメリカ・中南米諸国大使館との合同展示及び即売会」

2021年12月24日(金)～27日(月) リードシー代官山 1F(東京都渋谷区) 岐阜県作家2名出展

[連携先] 広域センター

## 岐阜県障がい者芸術文化支援センター 協力委員会・アドバイザー

### 協力委員会の設置

岐阜県障がい者芸術文化支援センターの事業計画や進捗状況を確認して事業運営に必要な意見をいただくため、様々な分野において活躍する県内の有識者に、協力委員を務めていただいています。

### 委員

岡本 敏美	一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会 会長
浅井 長可	一般社団法人岐阜県知的障害者支援協会 事務局長
中村 剛	特定非営利活動法人岐阜県精神保健福祉会連合会 顧問
長谷川 典彦	特定非営利活動法人岐阜県難病団体連絡協議会 理事長
青山 孝	岐阜県特別支援学校校長会 会長
日比野 克彦	岐阜県美術館 館長
石崎 泰之	岐阜県現代陶芸美術館 館長
鈴木 良春	一般社団法人岐阜県経済同友会 筆頭代表幹事
森脇 久隆	国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学 学長

### 協力委員会の開催

会 期：2021年11月22日（月）13:30～15:00

会 場：ぎふ清流文化プラザ 4F 第3練習室

出席者：委員9名（うち代理出席2名）、オブザーバー3名

障がい者の芸術文化活動の振興を図ることを目的に設置された岐阜県障がい者芸術文化支援センターの事業活動を支援するため、協力委員会を設置しています。

今回は令和3年度事業の実施状況について意見をいただきました。

### アドバイザーの委嘱

岐阜県障がい者芸術文化支援センターが障がい者の芸術文化活動を専門的見地から支援を行う際に必要に応じて、美術や舞台等の専門家から助言等をいただくため、アドバイザーを委嘱しています。

小島 紀夫	TASC ぎふ舞台芸術アドバイザー
古田 菜穂子	TASC ぎふアート利活用アドバイザー
曾我部 弘樹	TASC ぎふ障がい者 tomoni トータルアドバイザー
松井 義孝	TASC ぎふリーガルアドバイザー

## あとがき

日豊本線 JR 高鍋駅より車で10分ほどの距離にある高鍋町美術館で開催されていた「宮崎アーティストファイルギフト展」を会期最終日に飛び込むようにして見てきました。1年延期された第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会のスペシャル版として、鑑賞者側に立ち現代性を視点とした宮崎県内の若手アーティストら13名、122点の興味深い作品展でした。

言葉による解説が一般的ですが、ここでは顔や文字などの作品を3Dプリンターで製作した凹凸のあるパネルが用意されるなど、視覚障がいに対する配慮が随所に見られ、作品一つ一つを大事にした展示空間構成で企画力の高さを感じ、宮崎県一面積が小さな町であるにも関わらず、質の高い美術館がある事に驚きました。

この視察を皮切りに、3年後に岐阜県で開催予定の「第39回国民文化祭、第24回全国障害者芸術・文化祭」に向けて動き出しています。TASCぎふもこれまで取り組んできたことをベースに事業成果等を検証しながら準備を進めていこうと考えています。

特に今年重点に置いたアウトリーチ活動における地域支援は、中濃地域(関市)や飛騨地域(飛騨市)、東濃地域(多治見市)、西濃地域(大垣市)において福祉施設や作業所、民間団体が主体となり“福祉

とアート”を切り口に学校、文化施設、商店等を巻き込んだ展覧会、まちなかアート展やワークショップ、各種イベント等の活動が展開され、地域に新たな活力が生まれたと同時に地域における障がいの理解や文化意識の向上につながる取組みであったと思います。

さらに次世代を担う若者を対象に、芸術文化活動を通じた障がいの社会参加や共生社会の実現に向けた人材育成と障がい者による文化芸術活動に係る教育及び研究の促進を図るため、福祉に重きをおく中部学院大学・中部学院大学短期大学部と包括連携協定を結んだことや、岐阜大学教育学部の学生を対象にした作品鑑賞会を実施したことは今後のアートマネジメント等の人材養成に期待できると考えます。

人と人、人と社会の新たな繋がりを生み出すことやいろいろな視点から見たり感じることで新たな価値を見つけられることを期待しています。短期的目標として、3年後に開催される当県国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭に向けて、各地域が活性し岐阜県の文化芸術の底上げをし、豊かな地域社会の基盤ができることを期待します。

益々の皆様のご支援とご協力の程よろしく願います。

TASC ぎふ業務総括 土屋明之

## 企画・編集・発行

(公財) 岐阜県教育文化財団 岐阜県障がい者芸術文化支援センター (TASCぎふ)

〒502-0841 岐阜県岐阜市学園町 3-42 ぎふ清流文化プラザ 1F

TEL 058-233-5377 FAX 058-233-5811

MAIL [tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp](mailto:tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp)

WEB <https://www.tascgifu.com/>



Instagram

tasc\_gifu

YouTube

TASC ぎふ YouTube

検索

第39回 国民文化祭  
第24回 全国障害者芸術・文化祭

2024年秋 岐阜県開催

発行責任者：土屋 明之 (岐阜県障がい者芸術文化支援センター業務総括)

写真：スタジオベガソ ソッカ株式会社 TERAMAKI HomeCame TASCぎふ

デザイン：boum

題字：佐曾利 博 (第一陶技学園 所属)

表紙画：「無題」後藤 秀徳 (あしたの会 ふくろうの家 所属)



# TASC-GIFU REPORT

TASCぎふ(岐阜県障がい者芸術文化支援センター)

令和3年度事業報告書



岐阜県障がい者芸術文化支援センター

tomoni アートサポートセンター